

1783年浅間山天明大噴火

最近、雲仙岳やピナトゥボ山(フィリピン)の数世紀ぶりの大噴火が惨害を生じ、今後も成り行きが憂慮されている。火砕流と土石流の害が著しいが、昨年6月半ばに反復されたピナトゥボ山の巨大爆発で成層圏に達した多量の火山灰雲が地球全体へパラソル効果をもたらす恐れも多い。

この絵図は、1783年(天明3年)浅間山大噴火の惨状を群馬県側から鳥瞰したものだが、前記両火山、特に後者の大噴火に類似している。同年5～8月、浅間山では、大爆発のほか火砕流や溶岩流も発生した。火砕流は谷川に突入して泥流と化し、はるか利根川流域一帯まで被害を及ぼした。また、成層圏に上がった火山灰雲は、アイスランドのラーキ山大噴火のそれと複合して地球を覆い、世界的冷害——飢饉を助長した。ただし、その大噴火の絵図は本誌119号(1979年)や150号(1987年)にも掲載されているので、ここでは、浅間火山をめぐる面白い活火山談義を紹介しよう。

明治・大正両天皇に仕えた名医の入沢達吉先生は、軽井沢をしばしば訪れているうちに、すっかり気に入って、別荘を建てようと思った。だが、背後の暴れん坊・浅間火山が気になったので、同じ東大に勤め、浅間山を研究していた大森房吉先生に、その活動の見通しを尋ねた。大森先生は「案外早く落ち着いてしまうかもしれない」と答えた。入沢先生はほっとしたが、念のため「案外早くとは、何年くらいか」と尋ねた。大森先生は「1、2万年もすればね」と答えたという。

昔、火山は、近年も噴火している活火山、噴火記録はあるが近年は噴火しない休火山、噴火記録がない死火山の3種に区分されたが、その分類は矛盾が多く、弊害が著しい。「近年」の年数は学者によって違い、もし、それを定めてみても、諸火山の活動性を「活」「休」の名にふさわしく区分するのは至難である。また、歴史時代の長さは所によ

って異なる。さらに、上述のように、火山の寿命に比べれば、歴史時代の長さはあまりに短い。それで、「死火山大爆発」といった異変も、国の内外でしばしば起きるのである。

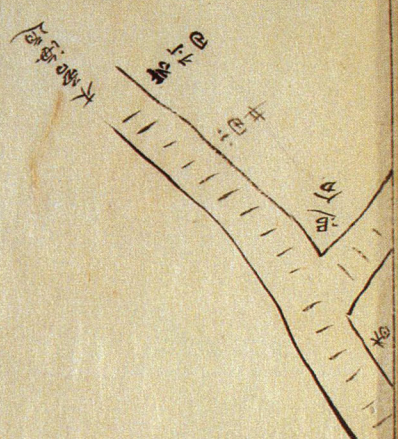
戦後、学界では「活火山」の定義を改め、休火山・死火山の語は用いなくなった。この活火山は、科学的見地からまだ生きてると認められる火山で、従来の活・休火山全部と死火山の若干(箱根山など)も含まれる。つまり、噴火記録はなくても、歴史時代の長さ程度の間(過去約2000年以内)に噴火したことが科学的に立証されたり、噴気・地熱地域が現存し、時には噴気活発化、地震群発、鳴動などが起きたりする火山である。

諸火山の地質調査、放射性元素の壊変を利用した火山噴出物の年代測定、火山付近の考古学的調査、古記録の発見や再検討などが、年々進展し、内外諸火山の活動史も着実に解明されつつある。そのため、火山噴火予知連絡会は、昨年2月、新たに北海道の丸山、恵庭岳、倶多楽、青森・秋田県境の十和田、群馬県の榛名山を活火山と認定した。また、従来、1活火山としていた火山列島の北硫黄島付近の海底火山を、海徳海山と噴火浅根の2活火山に分けた。その結果、気象庁が観測対象とする活火山は77山から83山に増えた。これは世界の活火山総数のほぼ1割に当たる。

ところで、火山が自力で活火山に仲間入りする場合もある。1973年に海底噴火で新島が誕生し、後に本島と接続した西之島火山が好例である。同島は、内外の既刊の各種の火山分布図では、活火山はおろか、火山の存在すら、無視されていた。なお、ある火山を活火山と認定するか否か、また、前述のごとく複数の峰が群集する場合に、それらをいくつかの火山にまとめるか、などについて、学者たちの見解が一致しない場合も少なくない。

諏訪 彰 / 日本火山学会名誉会員

佐入郡



上州郡馬郡 北畠村 南畠村 内

高千二百六十石

男千二百七十人 女千二百二十人
牛馬百七十六疋 家数三百七十軒
八日四時前出
石原田長右衛門十一日也

草子宿より也

猿渡堂川邊大湯水川邊
家切人馬手足又輕難き
二十日流
伊豆手ちり飯より
水邊沙毛坪二斗七八升余



妙義山

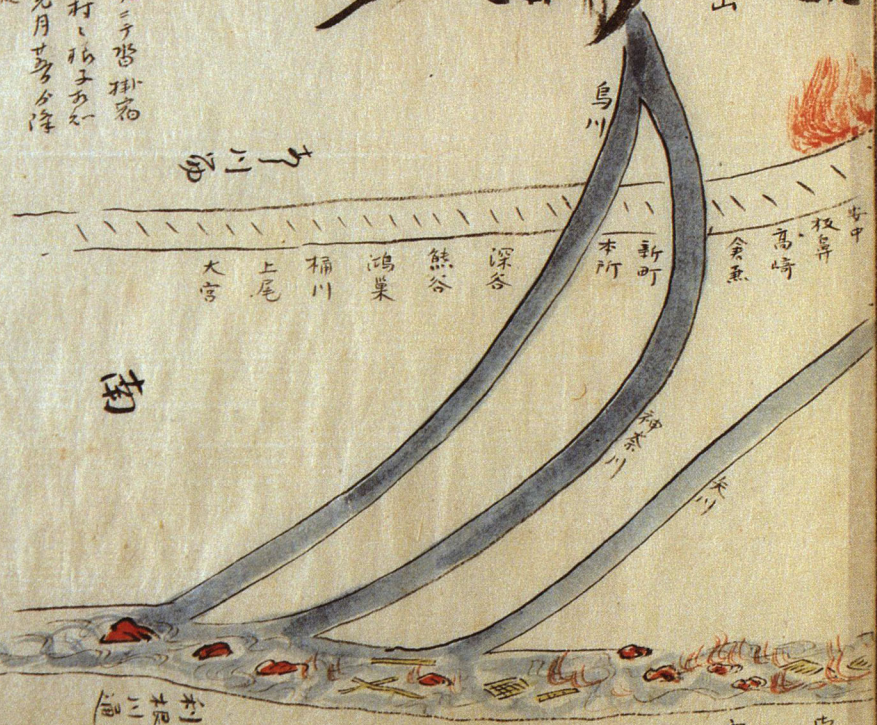
鳥川

信州輕井澤名所山燒ニテ皆掛石
道台名焼拂帶女遊延打、福子也
不、此色大石岩砂等先月廿分浮
根来より加光ニ也
三月、役所之物埋置手代大遊也
依之即代官名及之あり也

三

新町 本所 深谷 熊谷 鴻巣 桶川 上尾 大宮 高崎 板倉 安中

新



三

川 妻沼 中流 内科

吾妻川利根川一所ニ
ナリ吾妻川三ノ押出
先家財立木類ナレバ
タシク泥埋置時利根
川手渡ナリ

越後



吾妻山 山ノ枝ニ穴
出来焼土
乞ト云

白井村

赤城山

東

金井村

小池玉村

白井村

湯島村

右路リし由

大渡り

鏡
毛乃形山

不傷
伊香保

不傷
三國山

浅間山

碓氷

碓氷橋

吾妻川

中田

田丁

松林

山

山

山

山

山

山